

家庭教育通信

こどもとくらす4

第16号 平成22年11月11日発行

<テーマ> 「このごろ、元気がない?—友達との関係をめぐって」

大切な友達

こどもたちへのアンケートで「あなたが悩んだ時、誰に相談しますか?」とよく聞かれますが、この質問に対するダントツ1位の回答は「友達」です（ちなみに2位は「お父さん、お母さん」）。学童期のこどもたちにとって友達とはそれくらい大切なもの、価値あるものということでしょう。一緒に勉強したり、遊んだり、時にはけんか、そして仲直り。毎日とてもたくさんのエネルギーを友達関係に注いでいるようです。

それほど大切な友達ですが、この時期のこどもの発達にともない関係が変わってきます。今までは家が近い、同じ園に通っている、保護者同士の仲が良いなどの条件で友達が決まっていました。ところが小学校に通うようになり世界が広がって、少し遠い家の友達、習い事出会った友達、異年齢の友達、何より自分と気の合う友達を求めるようになります。

友達をめぐるトラブル

こどもたちは相手との関係によって自分の個性に気付いていきます。積極的な子、気の長い子、明るい子、よく発言する子、静かな子、一見いじわるに見える子も。異なる個性がぶつかることで、嘘をついた、裏切られたと訴えることもあります。例えば「今度、遊ぼう」と誘われた時、どうしようかと迷い曖昧に「うん」と答えてしまった。その結果、断ることが増えたため「うん、と言ったのにどうして」と責められたりします。上手に断るのは大人でも難しいものですね。

また相手の能力（運動・学習・コミュニケーションなど）、容姿（見た目がカッコいい、おしゃれな服装など）、社会的な立場（家族構成・兄弟順位など）にも関心を持ち意識し始めます。思春期にはさらにこの意識が高まります。

思春期にむけて

育った環境にもよりますが、これらはいずれも新たな集団生活へ準備が整いつつあることを示しています。たくさん練習をしておく方が良いかもしれません。トラブルと見える事が実は成長のチャンスでもあります。早い子は小学校高学年に「自分」を強く意識した思春期的課題を迎えます。その前に、たっぷりとした「こども」の時間を親子で楽しんでください。